

なんでも専門

新聞ＴＶをみていると、世の中専門家があふれている。なんでも専門。古来専門家といえど余人の及ばぬ知識学識の高山であった。専門は仰ぎ見るに鋭峰で、ゼネラリストは巨峰であった。

ところが昨今、その山頂から何千メートルも下がった平地にも専門家の旗が林立して混雑している。ネットを一瞥、TV スイッチいれると、すぐに飛び込んできた専門家たち。面白いから列挙すると；ダイエット方法専門家・米朝交渉専門家・コミュニケーション専門家・労働政策専門家・スキルアップ専門家・住宅ローン専門家。まだまだイッパイ；墓石専門家・集客ドラマ専門家・なんともイヤハヤ、離婚問題に関する書類作成の専門家。

この伝で臨床分野でも、なんでも専門家が拡声器で騒々しい。褥創専門、脈管専門、緩和ココロのケア専門、睡眠時無呼吸症候群専門、リウマチ専門、メニエール専門・・・せんもん専門なんでも専門。睡眠と睡眠障害の専門別をご存知か。その騒々しさに負けじと、今日の夕刊（日経）によれば、専門家が、アルコールが抜けるには時間がかかる、と居酒屋オヤジも顔負けの注意を呼びかけている。傘は風に向かってさすと濡れない、と専門家が教えてくれるバカバカしさ。

オールラウンダーのゼネラリスト羽生は振り飛車でも居飛車でもマイケル・フェルプスはバタフライでも自由形でも勝つ。しかもその相手もプロ高段棋士やオリンピック泳者。エースで４番だった王、エースで３番だったイチロー、４番でエースだった松阪が、いまは打者専門・投手専門になったのだ。草野球が彼ら並みに専門を自称してよいものだろうか。